

平成 23 年度
事業報告書

第6期事業年度

自 平成 23年4月 1日
至 平成 24年3月31日



公立大学法人 和歌山県立医科大学

目次

「公立大学法人和歌山県立医科大学の概要」

1. 目標	1
2. 業務	1
3. 事業所等の所在地	2
4. 資本金の状況	2
5. 役員の状況	2
6. 職員の状況	3
7. 学部等の構成	3
8. 学生の状況	3
9. 設立の根拠となる法律名	3
10. 設立団体	3
11. 沿革	4
12. 経営審議会・教育研究審議会	7
(1) 経営審議会	7
(2) 教育研究審議会	7

「事業の実施状況」

I. 大学の教育研究等の質の向上	8
1. 教育に関する実施状況	8
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	8
ア 学部教育	8
イ 大学院教育	8
ウ 専攻科教育	8
(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置	8
ア 学部教育	8
イ 大学院教育	9
ウ 専攻科教育	9
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	9
ア 適正な教員の配置等	9
イ 教育に必要な施設、図書館、情報ネット教育環境の整備	10
ウ 教育の質の改善	10
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	10
ア 学習相談、助言、支援の組織的対応	10
イ 生活相談、就職支援等	10
ウ 留学生支援体制の整備	10
2. 研究に関する実施状況	10

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	・ 1 0
ア 目指すべき研究の方向と研究水準	・ 1 0
イ 成果の社会への還元	・ 1 0
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置	・ 1 0
ア 研究体制	・ 1 0
イ 研究に必要な設備等の活用・整備	・ 1 1
ウ 研究の質の向上	・ 1 1
エ 研究資金の獲得及び配分	・ 1 1
3. 附属病院に関する実施状況	・ 1 1
(1) 教育及び研修機能を充実させるための具体的方策	・ 1 1
(2) 研究を推進するための具体的方策	・ 1 1
(3) 地域医療への貢献と医療の実践を達成するための具体的方策	・ 1 1
(4) 医療安全体制の充実に関する具体的方策	・ 1 1
(5) 病院運営に関する具体的方策	・ 1 2
(6) 附属病院本院と同紀北分院の役割分担及び連携を強化するための 具体的方策	・ 1 2
4. 地域貢献に関する実施状況	・ 1 2
5. 産官学の連携に関する実施状況	・ 1 2
6. 国際交流に関する実施状況	・ 1 2
II. 業務運営の改善及び効率化	・ 1 2
1. 運営体制の改善に関する実施状況	・ 1 2
2. 教育研究組織の見直しに関する実施状況	・ 1 2
3. 人事の適正化に関する実施状況	・ 1 2
III. 財務内容の改善	・ 1 3
1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する実施状況	・ 1 3
2. 経費の抑制に関する実施状況	・ 1 3
3. 資産の運用管理の改善に関する実施状況	・ 1 3
IV. 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び 評価並びに当該状況に係る情報の提供	・ 1 3
1. 評価の充実に関する実施状況	・ 1 3
2. 情報公開等の推進に関する実施状況	・ 1 3
V. その他重要な業務運営	・ 1 3
1. 施設及び設備の整備・活用等に関する実施状況	・ 1 3
2. 安全管理に関する実施状況	・ 1 4
3. 基本的人権の尊重に関する実施状況	・ 1 4

「公立大学法人和歌山県立医科大学の概要」

1. 目標（法人の基本的な目標）（中期目標前文）

和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって、地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。

この目的を果たすため、特に以下の事項について重点的に取り組む。

- (1) 高等教育及び学術研究の水準の向上に資する。
- (2) 高度で専門的かつ総合的な能力のある人材の育成を行う。
- (3) 学生の修学環境の充実を図る。
- (4) 高度で先進的な医療を提供する。
- (5) 地域の保健医療の発展に寄与する活動を行う。
- (6) 地域に生涯学習の機会を提供する。
- (7) 地域社会との連携及び産学官の連携を行う。
- (8) 人類の健康福祉の向上に寄与するための活動を行う。

2. 業務

和歌山県立医科大学（以下「本学」という。）は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として基礎的、総合的な知識と高度で専門的な医療を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって、地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与している。

第1期中期計画期間の最終年度となる平成23年度、「チャレンジ・羽ばたく未来へ」を基本理念に、医学・保健看護学における教育・研究・臨床、そして地域医療を推進すべく、様々な取り組みを実施してきたところである。

教育の面においては、昨年度から医学部定員が100名（一般枠70、県民医療枠20、地域医療枠10）となり、地域医療に貢献すべく、知識・技能・態度（倫理観）を総合的に育成できる教育を実施した。

研究の面においては、本学と企業との共同研究や受託研究など外部資金を活用した研究活動が展開され、優れた研究成果については、知的財産化を進めてきた。また、若手研究者の研究に対する動機付けを高める取組を行った。

臨床の面においては、附属病院で、予てから導入に向けて準備を進めてきた7対1看護体制の運営を平成23年4月から開始した。また、救急外来観察室や周産期母子医療センター（GCU）を整備し、三次救急医療機関としての機能強化や、妊婦・新生児への医療充実を図った。さらに、医療人を育成するという観点からも臨床教育及び実習の場を提供するとともに、

研修医の協力病院への派遣や実習生の受け入れなど地域に開かれた大学病院として様々な取組を行った。

次に、紀北分院については、平成22年9月に新病院として開院したところだが、平成22年度決算で業務損益が前年度比約150百万円損失増の△563百万円となったことに伴い学内に紀北分院経営改善PTを設置し、改善策を図った。具体的な取組としては、職員の意識改革、内科系、外科系医師2名による当直体制の実施、病院輪番制当直参加回数の増加、大学教授等による診療指導等を行い、地域医療を担う医療機関として、断らない医療、地域に信頼される医療機関の実践を図った。その結果、病床利用率が対前年度比29.2%増の70.2%、1日平均外来患者数が対前年度比約10%増となり、業務損益が公立大学法人化後、初めて△300百万円を切ることとなった。

以上、全体的な業績を記したところであるが、平成23年度の大きな問題として、毎日新聞社から報道された「腎臓内科・血液浄化センター前教授に対する関連病院からの寄附金問題」が挙げられる。学内に設置された調査委員会（外部委員含む）からの提言に基づき、再発防止のための諸施策を講じ、実践しているところである。

3. 事業所等の所在地

大学・医学部	和歌山市紀三井寺811-1
保健看護学部	和歌山市三葛580
附属病院	和歌山市紀三井寺811-1
附属病院紀北分院	伊都郡かつらぎ町妙寺219

4. 資本金の状況

56,524,271,000円 平成24年3月31日
(全額 和歌山県出資)

5. 役員の状況

役員の定数は、公立大学法人和歌山県立医科大学定款第8条により、理事長1人、副理事1人、理事4人以内及び監事2人を置く。また、任期は同定款第14条の定めるところによる。

役 職	氏 名	就任年月日	主 な 経 歴
理 事 長	板 倉 徹	平成22年4月1日	学長
副理事長	西 上 邦 雄	平成23年4月1日	前県福祉保健部長
理 事	宮 下 和 久	平成24年4月1日	医学部長 衛生学教授
理 事	岡 村 吉 隆	平成24年4月1日	附属病院長 第一外科学教授
理 事	塩 崎 望	平成24年4月1日	事務局長兼務
監事(非常勤)	岡 本 浩	平成24年4月1日	弁護士
監事(非常勤)	稲 田 稔 彦	平成24年4月1日	公認会計士

6. 職員の状況 平成24年5月1日現在

教員 348人

職員 1,112人

7. 学部等の構成

医学部

保健看護学部

助産学専攻科

医学研究科

保健看護学研究科

8. 学生の状況 (人) 平成24年5月1日現在

	医学部	保健看護学部	計
総学生数	683	369	1052
学部学生	547	337	884
専攻科	—	9	9
修士課程	23	23	46
博士課程	113	—	113

9. 設立の根拠となる法律名

地方独立行政法人法

10. 設立団体

和歌山県

1 1. 沿革

年 月 日	
昭和 20. 2. 8	和歌山県立医学専門学校設置認可
22. 6. 18	和歌山県立医科大学予科設置認可
23. 2. 20	和歌山県立医科大学設置認可
26. 3. 31	和歌山県立医学専門学校及び和歌山県立医科大学予科廃止認可
27. 2. 20	学制改革により新制度による和歌山県立医科大学設置認可
29. 6. 1	附属病院第1病棟完成
30. 1. 1	和歌山県指導厚生農業協同組合連合会紀北病院を買収、本学附属病院紀北分院開院
30. 1. 20	和歌山県立医科大学進学課程設置認可
31. 5. 7	附属病院第2病棟完成
33. 7. 1	学位規定の制定認可（学位審査権）
33. 12. 12	附属病院第3病棟完成
35. 3. 31	和歌山県立医科大学大学院設置認可
35. 5. 18	附属病院診療本館完成
35. 12. 24	興紀相互銀行の旧館を買収し医局に使用
36. 2. 10	旧診療棟を病棟（第6病棟）に改造
36. 2. 20	紀北分院第2病棟改築完成
36. 3. 31	旧制和歌山県立医科大学廃止
年 月 日	
37. 11. 15	紀北分院診療本館完成
38. 4. 1	大学本部及び基礎医学部の位置変更認可
38. 9. 14	大学本部及び基礎医学教室会館完成
38. 10. 5	和歌山市弘西に進学課程敷地を取得
39. 1. 11	学生定員（60名）の変更承認
39. 12. 10	看護婦宿舎完成
39. 12. 14	大学院学生定員の変更承認
40. 4. 5	紀伊分校（進学）の校舎完成
42. 3. 17	附属病院第5病棟完成
42. 4. 1	学生部及び進学部設置
42. 11. 27	紀北分院看護婦宿舎完成
43. 9. 26	紀北分院第1病棟改築完成
44. 1. 14	臨床検査研究棟完成
44. 3. 14	紀北分院診療本館増築完成
46. 3. 26	大学院学生定員の変更承認
46. 7. 17	紀北分院医師住宅完成
46. 7. 20	紀伊分校（進学）体育館完成
46. 8. 1	応用医学研究所発足

年 月 日	
47. 3. 28	大学院学生定員の変更（108名）
48. 3. 31	紀北分院手術棟完成
49. 1. 29	大学院学生定員の変更（120名）
50. 4. 1	〃 （124名）
51. 3. 31	附属病院医局棟改築完成
51. 7. 1	創立30周年記念式典挙行
56. 3. 31	紀北分院敷地内に地方職員共済組合かつらぎ独身寮完成
59. 5. 14	附属病院別館病棟完成
61. 3. 29	附属病院第5病棟改築完成
62. 5. 31	附属病院第6病棟改築完成
63. 11. 15	附属病院診療本館改築完成
平成 元. 3. 15	附属病院第2病棟改築完成
元. 7. 1	高度集中治療センター設置
2. 6. 25	附属病院第3病棟改築完成
3. 8. 31	附属病院第1病棟改築完成
6. 12. 19	看護婦独身寮完成
7. 4. 1	附属病院特定機能病院の承認
7. 9. 17	創立50周年記念式典挙行
8. 4. 1	看護短期大学部開学
10. 9. 1	大学本部紀三井寺新キャンパスに移転
10. 9. 7	新大学開講式
11. 3. 24	大学・附属病院竣工式
11. 5. 8	新附属病院診療開始
11. 5. 13	新附属病院外来診療開始
11. 9. 12	生涯研修・地域医療センター開所式
12. 6. 1	救命救急センター設置
14. 3. 20	大学グラウンド完成
15. 1. 1	ドクターヘリ就航
15. 11. 27	和歌山県立医科大学保健看護学部設置認可
16. 3. 31	教養部廃止
16. 4. 1	和歌山県立医科大学保健看護学部開設
〃	入試・教育センター設置
〃	卒後臨床研修センター設置
17. 4. 1	和歌山県立医科大学大学院医学研究科修士課程開設・博士課程再編
18. 4. 1	公立大学法人和歌山県立医科大学設置
〃	産官学連携推進本部設置
〃	地域・国際貢献推進本部設置
〃	教育研究開発センター設置

年 月 日	
19. 4. 1	健康管理センター設置
19.10.22	医学部定員の変更(85名)
20. 4. 1	大学院保健看護学研究科(修士課程)開設
〃	助産学専攻科開設
20.10.29	医学部学生定員の変更(95名)
21. 3.24	医学部三葛教育棟竣工式
21. 3.25	株式会社紀陽銀行と連携協力に関する協定の締結
21.11.13	医学部学生定員の変更(100名)
21.12.22	高度医療人育成センター竣工式
22. 8.29	新紀北分院竣工式
22. 9.24	新紀北分院開院
23. 4. 1	産官学連携推進本部に知的財産権管理センター設置
〃	和歌山県地域医療支援センター設置
〃	高度救命救急センター指定

12. 経営審議会・教育研究審議会

(1) 経営審議会

平成24年5月1日現在

氏名	現職	備考
板倉 徹	理事長	
西上 邦雄	副理事長	
宮下 和久	理事（医学部長）	
岡村 吉隆	理事（附属病院長）	
塩崎 望	理事（事務局長）	
山本 明史	県福祉保健部長	学外委員
大江 唯之	社会医療法人 黎明会 理事・事務局長	学外委員
竹田 純久	セイカ㈱／和歌山精化工業㈱ 代表取締役	学外委員
山中 盛義	公認会計士	学外委員
田中 祥博	弁護士	学外委員

(2) 教育研究審議会

平成24年5月1日現在

氏名	現職	備考
板倉 徹	学長	
西上 邦雄	副理事長	
宮下 和久	医学部長（理事）	
山田 和子	保健看護学部長	
岡村 吉隆	附属病院長（理事）	
吉田 宗人	地域・国際貢献推進本部長	
佐藤 守男	産官学連携推進本部長	
篠崎 和弘	学生部長	
岩橋 秀夫	入試・教育センター長	
鶴尾 吉宏	附属図書館長	
岸岡 史郎	薬理学教授	
志波 充	保健看護学部学科長	
有田 幹雄	紀北分院長（保健看護学部教授）	
雑賀 司珠也	眼科学教授	
足立 基浩	和歌山大学教授（学外委員）	

「事業の実施状況」

I. 大学の教育研究等の質の向上

1. 教育に関する実施状況

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

ア 学部教育

- ・人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や理解力を育成するため、体験実習及び臨床実習における知識、技能及びケアマインドを指導者、看護師、患者の立場から多角的に評価し、その評価に関与する要因の解析結果に基づき、臨床実習の評価を改善した。
- ・国家試験形式に準じた卒業試験の実施、試験内容の精度検定による不適切問題の排除等を行い、医師国家試験合格率を向上させた。看護師及び保健師の国家試験については、計画どおりの高い合格率を維持した。

イ 大学院教育

- ・国内外の学術誌への学位論文の発表や学会活動を促進するため、大学院共通科目として、英語論文の書き方や読み方に関する講義を実施した。
- ・実践的な医療看護倫理を教授するため、ヘルスケアエシックスを共通科目として開講した。

ウ 専攻科教育

- ・地域との交流や地域医療に対する関心を高めるため、開業助産婦の母子保健活動や助産所業務を学ばせるなど、地域医療を実践するカリキュラムを配置し、専攻科生に履修を指導した。

(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置

ア 学部教育

(ア) 入学者受入れ及び入学者選抜

- ・選抜方法の評価を行うため、入試の形式及び入試時の成績と入学後の成績の関連を検証した。
- ・平成27年度選抜試験における大学入試センター試験の利用教科等を変更することとし、推薦入試については面接方法と障害のある者等に対する特別措置について検討した。

(イ) 教育課程

- ・教育方針等を保健師助産師看護師法の改正に対応させるため、保健師学校・看護師学校変更承認申請書を文部科学省に提出し、承認された。
- ・実践能力育成方法の充実を図り、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）とディプロマポリシー（学位授与の方針）を決定した。
- ・専門分野の枠を超えた学習の充実を図るため、「総合保健看護」の分野において6科目を開講し、横断的かつ総合的な学習の機会とした。

(ウ) 教育方法

- ・教養教育の充実のため学部間の共通講義を導入しており、学部を超えた学生のグループ分け、テーマに関する自己学習を踏まえた討論・発表を行う「医療入門 ケアマインド教育」を通年で実施した。
- ・医療従事者への理解を深めるため、少人数での演習や実習を実施した。

(エ) 成績評価

- ・学生の成績評価を全教員により総合的に判断して行うため、講師以上の教員を構成メンバーとする成績判定会議において学生の成績を評価した。

(オ) 卒後教育との連携

- ・医師としての基本的診療能力を高めるため、卒後臨床研修を修了した後期研修医に対して、救命救急センターにおいてプライマリケア診断力を高める研修を実施した。
- ・附属病院における卒前・卒後教育を充実させるため、附属病院看護部の卒後教育研修に保健看護学部教員を講師として派遣するとともに、保健看護学部の講義に附属病院看護部に看護師の講師派遣を依頼した。

イ 大学院教育

(ア) 入学者受入れ及び入学者選抜

- ・遠隔地派遣の大学院生等のために共通科目講義等をアーカイブ化し、学内 LAN で受講できる機会を提供した。
- ・医学研究課博士課程の充足率を向上させるため、新たな履修形態の検討を行うとともに、学生確保のため県内外の大学等に募集啓発を実施した。

(イ) 教育課程

- ・医学、医療、保健等の分野で活躍する講師を招聘し、高度専門的な知識や技術を修得させる講義を実施した。
- ・問題発見能力と解決方法の企画立案能力を有する研究者等を育成するため、分野横断的、高度専門的な特別講義等を実施し、様々な領域の専門知識を修得させた

(ウ) 教育方法

- ・研究レベルの向上と研究者間の交流を図るため、修士論文公開発表会等を実施した。
- ・教育研究目標及び研究指導目標を記載した「大学院学生要覧」に基づき、研究指導を行った。

(エ) 成績評価等の実施

- ・優れた研究及び専門能力を有する者を顕彰した。

ウ 専攻科教育

- ・助産学への向学心を高め、優秀な人材を確保するため、助産学専攻科のオープンキャンパスを保健看護学部のオープンキャンパスと同時に開催した。
- ・実習前に実習施設と連絡会を開催し、実習中は臨地実習指導者と協力して学生指導を行った。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置等

- ・実習施設との一層の連携を図り、臨床教育教授制度を活用するため、臨床教育講師に対し、称号付与の更新を行った。
 - ・大学院医学研究科整備検討委員会において、他大学における M. D. -ph. D コース等の導入事例について検証した。
- イ 教育に必要な施設、図書館、情報ネット教育環境の整備
- ・情報の電子化への対応として、逐次刊行物の購読については電子ジャーナル版を優先した。
- ウ 教育の質の改善
- ・教員に対する教育内容・方法の改善資料として、学生による評価の結果をフィードバックした。
- (4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置
- ア 学習相談、助言、支援の組織的対応
- ・学生の相談にきめ細やかな対応できるよう、クラス担任が随時個別面接を行うとともに、全ての専任教員にオフィスアワーを設定した。
- イ 生活相談、就職支援等
- ・主科目担当の指導教員による適切な進路相談を実施した。
- ウ 留学生支援体制の整備
- ・研究活動や学生生活支援に関する情報を、ホームページ等を活用して適切に提供した。

2. 研究に関する実施状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向と研究水準

- ・外部資金を活用して医療技術の開発等を行うため、寄附講座「運動機能障害研究開発講座」を新規開設した。
- ・基礎と臨床の橋渡し研究を推進するため、分野を超えた共同研究に対して助成を行った。
- ・県内のがん対策を推進するため、和歌山県からの受託事業として、標準データベース設置等の体制を整え、地域がん登録事業を開始した。

イ 成果の社会への還元

- ・生涯研修・地域医療支援センター主催で公開講座を開催した。
- ・小・中学及び高校生等を対象として、本学教員による出前授業を実施した。
- ・高等教育機関コンソーシアム和歌山の公開講座へ講師を派遣し、講演を行った。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置

ア 研究体制

- ・重点的に取り組むべきとして選定した研究を実施するため、遺伝子制御学研究部を開設した。さらに1つの研究部新設に向けた協議を行った。

イ 研究に必要な設備等の活用・整備

- ・動物実験施設において、利用実績が少ない大型イヌ飼育室をマウス飼育室に改修・拡張した。

ウ 研究の質の向上

- ・「次世代リーダー賞」及び「若手研究奨励賞」の審査を行い、優れた若手研究者を顕彰した。

エ 研究資金の獲得及び配分

- ・新規に受託研究及び共同研究を行った。
- ・科学研究費助成事業審査において惜しくも落選した若手研究者を対象に、若手研究者支援助成要綱に基づき、助成の選考・採択を行った。

3. 附属病院に関する実施状況

(1) 教育及び研修機能を充実させるための具体的方策

- ・卒後教育において早期から本人の希望に応じた専門教育が受けられるようなモデルプログラムを作成した。
- ・卒前・卒後の一貫教育を図り、保健看護学部と附属病院看護部との実習連絡会を開催し、実習目的や実習方法等について意見交換を行った。
- ・特色ある診療科での臨床研修を図り、25の協力病院等において延べ149名が臨床研修を実施した。
- ・県内の医療専門職員の育成と能力向上を図り、コ・メディカルスタッフの実習生を積極的に受け入れた。

(2) 研究を推進するための具体的方策

- ・新薬開発に貢献するため、治験を幅広く実施するとともに、薬剤に通じた治験コーディネーターの確保に努めた。

(3) 地域医療への貢献と医療の実践を達成するための具体的方策

- ・患者ニーズに応じた診療体制を確立するため、附属病院の機能を点検し、「リウマチ・膠原病外来」を設けるとともに、心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科において禁煙外来を開始した。
- ・救急患者の広域搬送と早期治療のため、ドクターヘリを活用して374名の患者を迅速に医療機関へ搬送した。
- ・地域医療枠の学生について研修プログラムの検討を行うとともに、学生に対する意識付けのセミナー及び病院研修を実施した。

(4) 医療安全体制の充実に関する具体的方策

- ・各所属のリスクマネージャーによるリスクマネージャー会議を定期的で開催した。
- ・全職員を対象とした医療安全研修を実施した。また、紀北分院においては、院外の研修会にも積極的に参加した。

- ・3b以上の医療事故を3か月毎にホームページで公表した。

(5) 病院運営に関する具体的方策

- ・附属病院中央部門に医療情報部（医療情報システム係と診療情報係）を設置した。
- ・7対1看護体制の実施が認可され、看護職員の育成体制を整備した。
- ・医事業務委託について、附属病院本院及び紀北分院のいずれにおいても見直しを行った。

(6) 附属病院本院と同紀北分院の役割分担及び連携を強化するための具体的方策

- ・附属病院本院と紀北分院の間で人事交流を実施した。

4. 地域貢献に関する実施状況

- ・和歌山県からの受託により地域医療支援センターを設置し、県民医療枠及び地域医療枠のキャリア形成支援を通じて地域医療支援を実施することとした。
- ・小児育成医療支援学講座においては相談業務を実施し、みらい医療推進学講座においては市民公開講座や診療を実施した。
- ・地方公共団体の審議会、委員会等に参画した。

5. 産学官の連携に関する実施状況

- ・異業種交流会や医工連携セミナーを株式会社紀陽銀行と共催し、企業とのマッチングを促進した。
- ・他大学等との研究者交流を目的とした研究会を開催した。
- ・産官学連携に関する最新の情報を発信し、研究の活性化及び外部資金の導入を推進した。

6. 国際交流に関する実施状況

- ・海外の大学からの留学生と本学の学生・教職員との情報交換会を開催した。
- ・海外の大学へ学生を派遣するとともに、当該学生の語学力向上を図る授業を実施した。

II. 業務運営の改善及び効率化

1. 運営体制の改善に関する実施状況

- ・本学のコンプライアンスが強化されるように監事、会計監査人及び監査室が情報や意見を交換できる場を設定した。

2. 教育研究組織の見直しに関する実施状況

- ・企画戦略機構において、紀北分院の経営改善に関する検討を行った。

3. 人事の適正化に関する実施状況

- ・育児休業や長期休業からの復職支援として、研修や面接を実施した。
- ・育児時間制度等の利用やメンタルヘルスの対策に係る相談を行った。
- ・臨床教授等の称号を新たに3名に対して付与した。

Ⅲ. 財務内容の改善

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する実施状況

- ・高度医療人育成センター研修室の利用料金を設定し、外部の医療関係団体等の利用も可能とした。
- ・7対1看護体制の導入に伴う入院基本料金等の増加により、入院単価が大幅に上昇した。
- ・平均在院日数について、附属病院本院及び紀北分院ともに前年度より短縮された。病床利用率については、本院では前年度を下回ったが、紀北分院では70%を達成した。

2. 経費の抑制に関する実施状況

- ・冷房施設の運転時間短縮や冷房温度（28度）の徹底により、総合エネルギー使用量は対前年比でほぼ計画どおりに達成した。
- ・医薬材料比率は、対前年度比1.69ポイントの減少となった。
- ・法人の経営に関する勉強会を幹部職員等に対して2か月毎に開催した。

3. 資産の運用管理の改善に関する実施状況

- ・収支計画を作成し、当該計画に基づき定期預金での運用を行った。

Ⅳ. 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

1. 評価の充実に関する実施状況

- ・（財）日本医療機能評価機構の認定審査に向け、対策委員会等を設置し、対応を行った。
- ・（財）大学基準協会への改善報告及び完成報告に向けた取組を進めた。

2. 情報公開等の推進に関する実施状況

- ・頻回更新したホームページや病院広報誌、記者会見等により、積極的に情報提供を行った。
- ・個人情報の適切な取扱いについて周知を行った。

Ⅴ. その他重要な業務運営

1. 施設及び設備の整備・活用等に関する実施状況

- ・整備計画に基づき更新工事を実施した。
- ・「地域医療支援センター（仮称）」の基本設計及び実施設計を行った。

2. 安全管理に関する実施状況

- ・病院棟1階廊下に手摺りを設置した。
- ・学生に対して、入学時に、喫煙や薬物乱用防止に関する講義を実施するとともに、交通安全指導等も行った。
- ・保健看護学部1年次の学生を対象に防災訓練を実施した。
- ・災害対策訓練を実施するとともに、東日本大震災における医療支援活動報告会を開催し、附属病院本院における問題点の洗い出しを行った。

3. 基本的人権の尊重に関する実施状況

- ・人権及び生命倫理に関する知識の習得を図り、人権意識を高めるために、全職員及び職場研修委員向けの研修をそれぞれ実施した。受講できなかった職員には研修ビデオの貸出を行った。
- ・紀北分院新病院では医療相談室を設置し、患者や家族からの相談に対応した。
- ・疫学研究及び臨床研究に関する倫理委員会の開催を、隔月から毎月に変更した。